2021

体験しながら学ぶ
はじめてのアフリカ

第２回：アフリカンファッション

アフリカ理解プロジェクト・ガールスカウト東京都第 36 団

ガールスカウト対象オンライン講座2021

ガールスカウト対象オンライン講座
はじめての体験から学ぶアフリカ　第2回　はじめてのアフリカンファッション
アフリカ大陸で暮らす人たち、民族衣装（布）の着方を知る
アフリカの布でクラフトを作ってみよう！
コースターまたはヘアバンドを作ります

日時:　2021年7月18日（日）14:00-16:00（2時間）zoomにて開催
参加者:　ガールスカウトシニア・レンジャー・リーダー・成人会員　36名(欠席3名)
講師・スタッフ:　講師1名、ARPスタッフ3名、GS36団アフリカチーム6名
共催:　アフリカ理解プロジェクト/ガールスカウト東京都第36団

東京都第36団(以下GS36団)のアフリカに関する活動を行うアフリカチームが司会進行を務める。

開会のあいさつ
アフリカ理解プロジェクト(以下ARP)とGS36団の共催。GS36団は20年以上前からアフリカ（タンザニアやエチオピア）の教育支援活動を行っている。2016年に団でエチオピアスタディツアーを実施し、本当のアフリカの体験をすることができた。しかしアフリカは誰でも簡単に行けるところではなく、GS36団がエチオピア派遣や事前研修として学んだARPの講座で学んだことを活かしながら、全国のGSの皆さんにもアフリカについていろいろな角度から知ってもらいたいと思い、この企画を計画した。このプログラムをきっかけにアフリカを少しでも身近に感じてもらえると嬉しい。

アイスブレーキング
日本全国から集合した参加者を4つのグループに分け、自己紹介の時間を設けました。「どこの県からの参加？」「今、関心のあること（はまっていること）は？」など発表しあい、楽しく会話がはずむアイスブレーキングになりました。

お話1) はじめてのアフリカンファッション

講師：白鳥くるみ　アフリカ理解プロジェクト代表

みなさん、こんにちは！今日の講座は、第2回のこちら。「はじめてのアフリカンファッション」です。今回も、北は北海道から南は九州まで、全国から36名ものガールスカウトのみなさんが参加しています。

第1回の講座では、アフリカの基本的な知識から最新の話題まで、みんなで楽しく学びました。体験では、こんな国旗色のビーズをつくりました。私たちは、このような講座を今後もつづけていきたいと思っています。みなさんの感想を、ぜひアンケートで教えてください。

改めまして、みなさんこんにちは。今日の「お話」と「体験」の講師をつとめる白鳥くるみです。私のプロフィールは、第1回の講座の報告書にあるので、省きますが、ごあいさつ代わりに、私の若かりしころのタンザニア時代の写真を一枚。

写真のマサイの男性たちは、カラフルな民族布（マサイシュカ）をまとっています。シュカは、スワヒリ語で布という意味です。この布はルイ・ヴィトンが2012年、コレクションで発表し、世界から注目されるようになりました。マサイの人たちが暮らすサバンナは、朝晩、寒暖の差がはげしい地域で

す。大きく軽い布は、体をすっぽり包み、鮮やかな色は広いサバンナでよく目立つ。実用性とファッション性の両方を兼ね備えています。私もアフリカの暮らしのなかで、民族布やヘッドスカーフはよくつかっていました。今日は、私のとなりのマサイの女性がまとっている民族布「カンガ」を中心に、世界のファッションデザイナーをとりこにする「アフリカの民族布のお話」をしたいと思います。

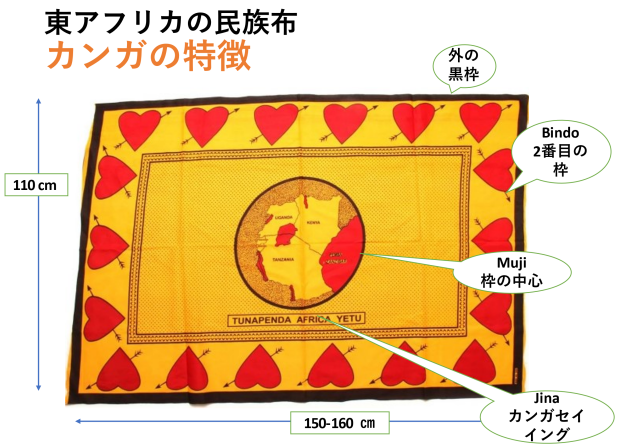
代表的な民族布

アフリカには54もの国と地域があり、大きく、多様な大陸です。伝統衣装やファッションと呼ばれるものは、国や民族、宗教など。また都市と農村でも異なります。すべての民族衣装とファッションについて、この短い時間でお話するのは難しいので、今日は、特にアフリカの女性が愛用する代表的な民族布で、ファッションとしても、世界的に知られる東アフリカの「カンガ」と西アフリカの「パーニュ」についてお話します。

巻くタイプと仕立てて着るタイプ
アフリカの民族布は、大きくわけると、巻くタイプと着るタイプに分けられます。写真左の3枚が巻くタイプ、右の3枚が仕立てて着るタイプです。生地は多くは綿で、ウールやシルクの場合もあります。実用性からレーヨンやアクリルなどの化学繊維も増えています。

アフリカの民族布を、アフリカの人、日本人、みんながどんなふうに着こなしているか、横浜で開催されていたアフリカンフェスタの動画をみましょう。【動画紹介】 みんなステキに着こなしていますね！

東アフリカの民族布カンガ



みなさんにお送りしたアフリカの布は、「カンガ」という名前の民族布です。カンガは、主に女性がまとう布で、東アフリカの海岸地方で生まれ、今では南部アフリカの国々にも広がっています。布の大きさは、縦110cm×横150-160cm。もっとも大きな特徴は、スワヒリ語で「カンガ・セイイング: jina」が書かれていることです。
カンガセイイングには、ことわざ・神への信仰・愛や友情、感謝、伝えたいことなどのメッセージが書かれています。写真のカンガのメッセージは、「TUNAPENDA AFRICA YETU:WE LOVE OUR AFRICA（私たちは、私たちのアフリカを愛している）」という意味です。

「女性が口に出して言えないメッセージや意思を伝える」というのが、この布の大きな特徴です。

東アフリカの国々では、カンガは伝統布ですが、今でも女性の日常着、肌掛け、おぶいひも、ヘッドスカーフなど、多様な用途につかわれています。カンガは、街の衣料品店や市場など、身近なところで買うことができます。値段は、250円～500円くらい。通常、2枚一組で売られています（上と下で組み合わせて着たり、好きな友だちに1枚あげたり・・）。参考までにケニアの人たちの平均月収は、最小157USドル、最大641USドル（1997-2019 CEICデータ）で、庶民にはカンガは高価な買い物のようです。
デザインは、草花、果物、幾何学模様、記念などさまざまで毎年、異なるデザインが生み出されています。布端の生産国・社名・製法・型番・年などの情報も買う時に参考にしますが、現地の人は好みのメッセージをデザインより優先します。

みなさんにお送りしたカンガは、外国製ではなくケニア・タンザニアでつくられたものです。品質はまだ開発途上で、生地がたまにすこしゆがんだり、プリントがずれたりしていたりする時がありますが、長い目でみて現地でつくられたものを応援していきたいと思っています。

民族布の着方

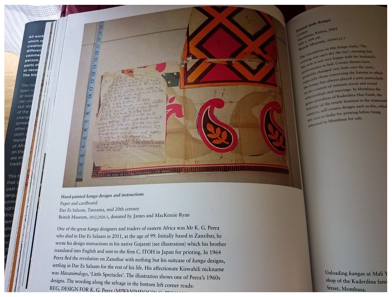
カンガは、イベントやお葬式などの冠婚葬祭にもつかわれます。結婚式には、新婦の友人たちがおそろいのカンガを着ることもありますよ。このあとの実習で、実物のカンガと、着方の基本を、東京36団のアフリカチームがご紹介します。
写真は、2枚一組のカンガを着ているところです。
出典：おしゃれなアフリカ『アフリカンドレス』/アフリカ理解プロジェクト著/明石書店

カンガは、1枚の布を切らずに使いますが、現在では、切って使われるようにもなりました。その際でも、「メッセージを伝えるカンガセイイング」は切らず、デザインにしています。みなさんの布も、そのように裁断しています。文字が入っているのは、端にプリントされた製造国などの情報です。

カンガの歴史
カンガの歴史を簡単にお話します。カンガが生まれたのは19世紀の中頃から末期で、比較的あたらしい民族布と言えます。東アフリカの海岸地方、ザンジバルやモンバサのおしゃれな女性たちが、6枚のハンカチサイズの布を縫って、1枚の大きな布にしたのがはじまりと言われています。最初の布がほろほろ鳥の羽のデザインだったことから、スワヒリ語で「ほろほろ鳥」を指す「カンガ」という名前がつけられました。初期の布にはカンガセイイングは書かれていませんでしたが、ケニアのモンバサに住む貿易商のアブドラさん（K.H.E（Kaderdina Hajee Essak）が考案し、今日のカンガになりました。

カンガと日本のつながり
誕生してから、長い間、カンガは、インドや中東、ヨーロッパで作られ、輸出されていました。実は日本からも、大阪にあった綿織物の商社を通じて、カンガがアフリカへ輸出されていた時期があります。日本とアフリカにはこんなつながりもあるんですね。
カンガは、今でもインドや中国で作られていますが、1950年代にはカンガの多くは、タンザニアやケニア、ほかのアフリカの国々で生産されるようになりました。みなさんの布もケニア、タンザニアで作られたものです。

カンガと日本のつながり



日本から輸出
・大正初期～昭和戦前
・昭和30年～50年

写真：1964年に貿易商のK.G Peera氏が
日本のMr. C. ITOH氏にあてたデザインメモ

出典：2010,African Textiles Today/CHRIS SPRING

西アフリカの民族布パーニュ
パーニュ（アフリカンワックスプリント）は、西アフリカの代表的な民族布です。中央アフリカ・東アフリカの国々でも名前が変わり、この布は使われています。パーニュの特徴は、布の柄でメッセージをつたえている点です（すべての布ではありません）。

西アフリカの民族布
パーニュ（仏語で腰巻きの意味）の特徴

- アフリカンワックスプリント・キテンゲほかの名称
- 意味を持つ柄がある
- オランダのバティック印刷手法（19世紀末）が由来
- 両面プリントと 片面プリント（FANCY）がある
- 仕立て布（5.4m）と巻き布（1.8m）がある
- 布端に情報あり（生産国・社名・製法・型番）

パーニュは巻く、仕立てるの両方に使われます。仕立てるときは、写真のように、街の仕立てやさんでつくってもらいます。仕立て屋さんは型紙を作ることもなく、立体裁断で、仮縫いをしながら、客の好みのデザインに仕上げていきます。
出典：おしゃれなアフリカ『アフリカンアート＆クラフト』/アフリカ理解プロジェクト著/明石書店
写真：遠藤聡子

二つのアフリカの民族布語る
カンガとパーニュがどのようなメッセージを伝えているかみてみましょう。カンガは遠回しに奥ゆかしく、パーニュはダイレクトに、というような印象ですね。

アフリカンファッションの重要アイテム
ヘッドスカーフ ヘッドラップ、ヘッドギア、ドーク、ドゥク、ゲレ

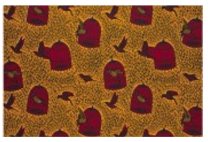
- 装飾や実用性
- 文化
- 宗教
- 考え、主張、シンボル、エンパワメント、つながり、アイデンティティ

アフリカの二つの布は語る
メッセージを伝える布カンガとパーニュ

EMA WA LEO NI AKIBA YA KESHO
今日の善行は、明日の蓄え

HURAHA YA YAKO NI YANGU
あなたの喜びは、私の喜び

WAFINYANZI HURIKIA VIGAE
似たもの同士



うらぎり
あんたが出かけるなら私も
「そっちが不誠実ならこっちだって」

家族
実は妻が家族の中心「夫は役に立たない」

教育
「教育を受けよう」

最後に、アフリカンファッションのなかで、重要なアイテムとされるヘッドスカーフについてお話します。

ヘッドスカーフは、
・アフリカの多くの地域で使われ、女性だけでなく男性も使います。
・ヘッドラップ、ヘッドギア、ドーク、ドゥク、ゲレなどさまざまな呼び名があります。
・ヘッドスカーフは、暑さから頭を守る、ファッションアクセサリーとしての役割だけでなく、文化や宗教を表現するばあいがあります。例えば、イスラム教徒の女性たちがかぶるヒジャーブは、身に着けている人の宗教や教えを表します。キリスト正教会でも、スカーフはつかわれます。その人の地位や既婚や未婚を表す、文化的な意味で被られることもあります。
・シンボルとして使われるばあいもあります。ヘッドスカーフは、歴史の中で、被ることを義務付けられたことがあります。奴隷制度です。このためヘッドスカーフをかぶることは長いあいだ、「奴隷のシンボル」のような扱われ方をしてきました。しかし、今では、「祖国を忘れなかった勇気のヘルメット」「反乱の制服」「共同体のアイデンティティ」として表現されています。
・ファッションは、装身具、美容（髪型、化粧）といった、表に現れる部分だけでなく、文化や歴史、宗教、道徳的な価値などその人の内面も表しているということを、私たちは知っておく必要があるでしょう。

アフリカの民族布は、女性のファッションという形とりながら、女性の考えや主張、アイディンティティ、つながり、エンパワメントを表現する手段として、現在も進化を続けてけているといえます。

＜質問＞
Q1カンガセイイングはどのくらい種類があるのでしょうか？
つぎつぎと新しいことばが生み出されるカンガセイイグは数えきれないほどあり、現地の人もその数は把握していないのではないかと思います。

Q2カンガもパーニュも鮮やかな柄ですが、逆に無地はないのでしょうか？
注：無地＝布全体が同じ色で模様のない布
カンガで柄がないものは私は見たことがありませんが（男性が着用するキコイという民族布には無地もあります）、白黒のように色が2色、柄が1パターン、カンガセイイグがないもの（結婚式のおそろいのカンガ）は持っています。70年代ケニアに住んでいた時、初めて買ったカンガ（写真右上）は、白、黒、赤の3色。シンプルな色合いのものが多かったです。新しくなるほど、カラフルになっているように思います。

Q3若い方の中では「この柄はダサい」「この柄は可愛い」というような流行はあるのでしょうか？
流行はあるようと思います。デザインが携帯電話の柄、傘の柄など、つぎつぎいと新しいデザインが生まれているからです。カラフルでビビットな色が多くなっているのは、若者の好みを反映している面もありますね。ただ、先ほどお話したように現地の人はカンガセイイングを見て購入しますから、色やデザインはメッセージのつぎの選択になるのかなと思っています。

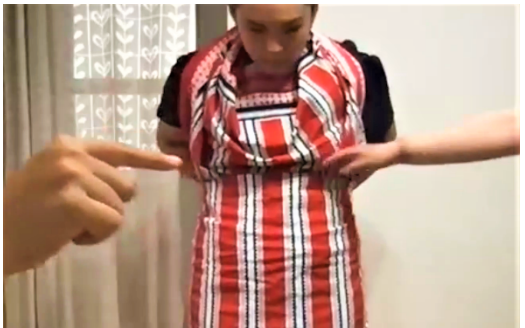
Q3ほろほろ鳥と東アフリカとの関係について教えていただけますか？
ほろほろ鳥(英名Guinea fowl)は、ギニア原産といわれます。アフリカ各地に生息し、愛らしい外見とユニークな白黒模様が、昔からアフリカでさまざまなファッションデザインにつかわれています。詳細は文献にないのでわかりませんが、ほろほろ鳥がカンガに使われたのも、当時東アフリカで好まれていた意匠だったからかもしれません。

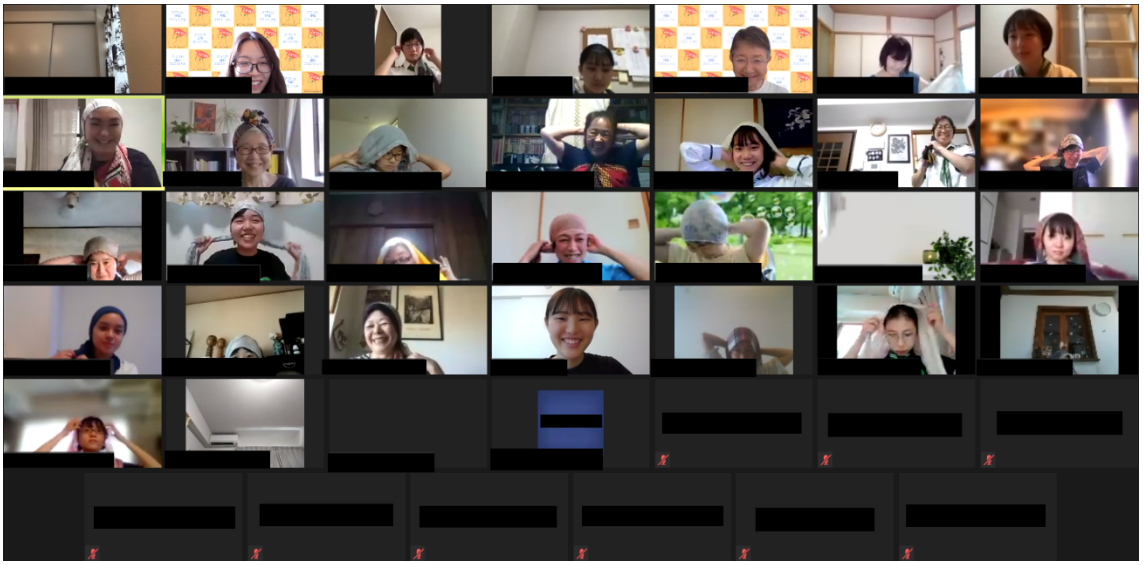
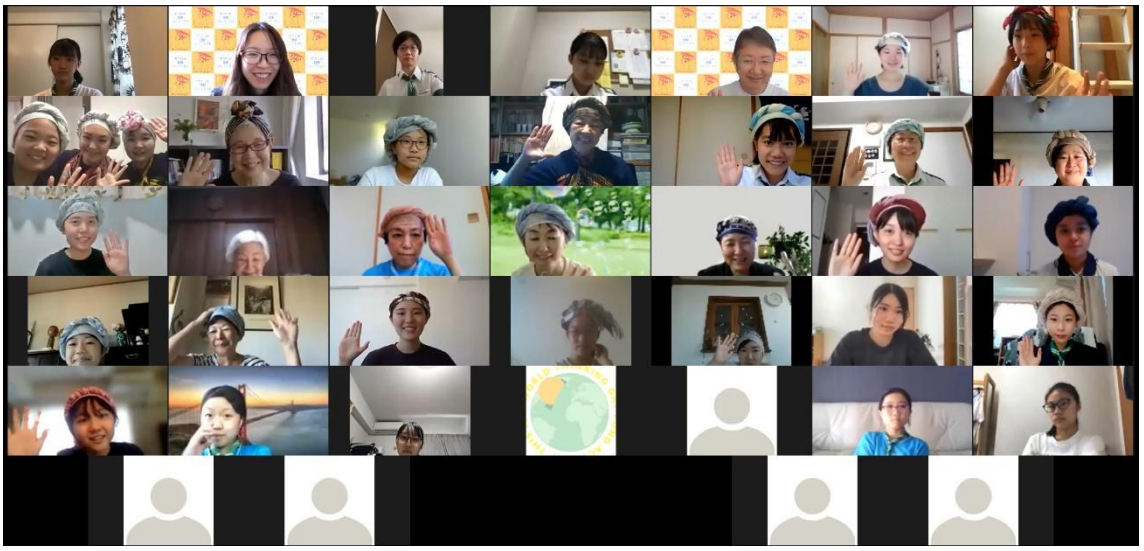
Q4西と東のアフリカで記事の文字、柄で訴えていること（訴え方）が違っていますが、西が直接的　東が間接的はやはり民族のちがいでしょうか。
私は東アフリカではケニアやタンザニアに長く住んでいて（これはあくまで私の感想ですが）、現地の人たちは直接的な言い方をすると争いになってしまうところを、上手にさける知恵があると感じています。例えば、隣に騒音がうるさいなどの問題が起こったとき、直接いうとけんかになってしまう。そんなとき、「隣人は大事」「仲良きことは美しかな」のようなメッセージのカンガを、さりげなく腰に巻く。それを隣が見て、何か気に障ることをしてしまったかなどと察するのです。ほのめかしや察する文化というものが、東アフリカ（いろいろな国があるので、ひとくくりにはできないですが）には、傾向としてあるように思います。カンガセイイング自体もさまざまな受け取り方ができるように、言葉は慎重に選ばれているようです。この言葉であなたを責めているわけではない、ただの格言と、言い訳ができるような言葉の選び方ですね。西アフリカ（こちらもひとくくりにはできませんが）は、明るくカラッとダイレクトにメッセージを発している印象を受けます。民族性によるちがいもあるかもしれません。

Q5仕立て屋さんの男女比を知りたいです。
専門的に研究をしているわけではありませんが、研究者のみなさんの論文や研究を読ませていただくと、アフリカでは仕立て屋さんは男性が多いようです。アフリカでは、男性の職業と女の職業が分かれていることが多いです。

Q6仕立て料金は幾らするのでしょうか？出来上がる迄は何日ほどかかるのでしょうか？
仕立て屋さんの技術力やどこで注文するのか（道端ミシン、店舗、ホテルやブティックなど高級仕立て屋さん）によって、数百円から何千円まで幅があります。できあがりは数日から1週間くらい。シンプルなモデザインなら、その日にうちに仕上がることもあります。

体験1)民族布カンガの着方
36団アフリカチームがデモンストレーション（カンガの説明、基本の着方、応用編、ヘッドスカーフの巻き方など7種類）を行い、ヘッドスカーフをみんなで巻いてみました。みんな楽しそう！

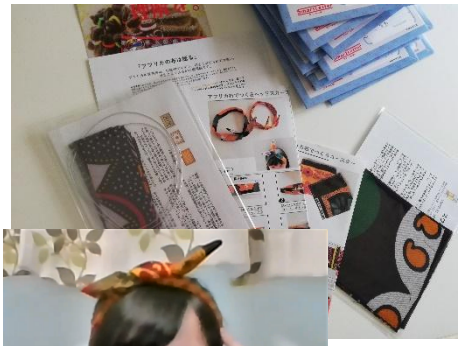


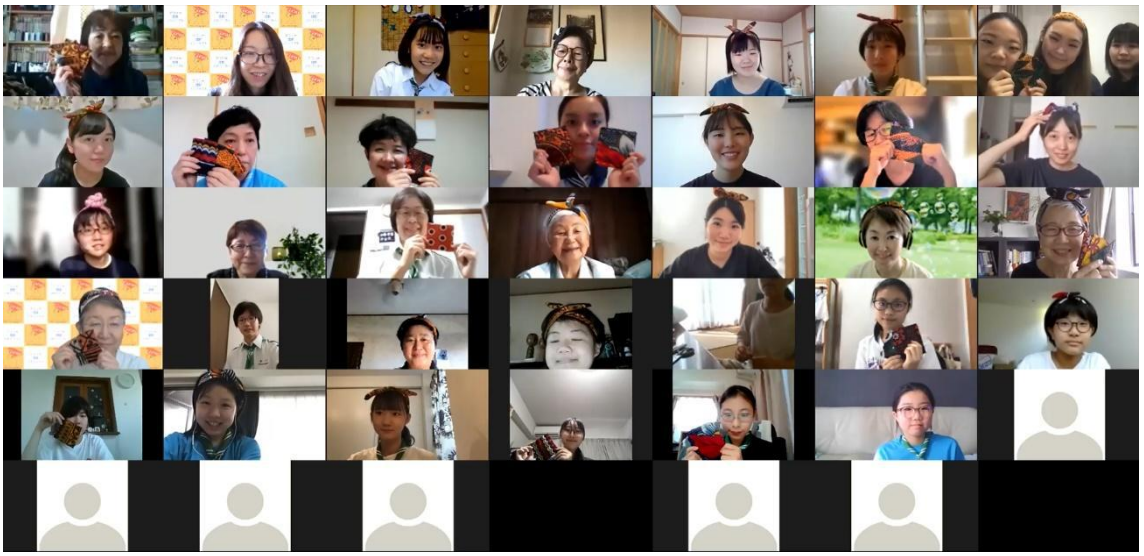
体験2）アフリカの布でクラフトをつくろう

休憩をはさんで、体験2「アフリカの布でクラフトをつくろう」がはじまりました。参加者には事前にコースター（3枚）かヘアバンド（1本）のどちらかを選んでもらい、材料とくわしい説明書が郵送されています。

今回は手縫いでぬえるよう薄いカンガを選びました。



できあがりはこんな感じ！



ヘアバンドはコースタよりすこし時間がかかりますが、全員ほぼ時間内にしあがりました！みんなとてもすてきですね！

2021 年 6 月
©アフリカ理解プロジェクト・ガールスカウト東京都第 36 団

体験しながら学ぶはじめてのアフリカ
ワークシート

AFRICA

団 _____

名前_____

バッジブックと一緒にファイルに入れておきましょう。

国はいくつ？

講座で学んだ国に色を塗ろう！

アフリカの国	カ国
ガールスカウトの アフリカ地域	加盟連盟
アフリカ地域の ワールドセンター	

（2021 年 6 月現在）

「アフリカ」と聞いて、最初に思い浮かぶことは？

体験しながら学ぶはじめてのアフリカ 2021 ARP/GST36

△▼△ アフリカンファッション △▼△▼△

「カンガ」って何？

「カンガセイイング（Kanga saying：jina）」は、何語で書かれている？

_____ 語

カンガのデザイン

Jina にどんなことが書かれている調べてみよう！

前ページのカンガを参考に、自分だけのカンガをデザインしてみよう!

必ず描くもの：一番外の黒枠、二番目の枠、メッセージ、枠の中心

豆知識

ガールガイド・ガールスカウト世界連盟の 5 つ目のワールドセンター「クサフィリ（Kusafili）」は、スワヒリ語で「旅に出る」という意味です。

2021 年 6 月
©アフリカ理解プロジェクト・ガールスカウト東京都第 36 団

体験しながら学ぶはじめてのアフリカ
ワークシート

団 _____

名前_____

バッジブックと一緒にファイルに入れておきましょう。

国はいくつ？

講座で学んだ国に色を塗ろう！

アフリカの国	カ国
ガールスカウトのアフリカ地域	加盟連盟
アフリカ地域のワールドセンター	

（2021 年 6 月現在）

※「アフリカ」と聞いて、最初に思い浮かぶことは？

体験しながら学ぶはじめてのアフリカ 2021 ARP/GST36

△▼△ アフリカンファッション △▼△▼△

「カンガ」って何？

「カンガセイイング（Kanga saying：jina）」は、何語で書かれている？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 語

カンガのデザイン

Jina にどんなことが書かれている調べてみよう！

前ページのカンガを参考に、自分だけのカンガをデザインしてみよう!
必ず描くもの：一番外の黒枠、二番目の枠、メッセージ、枠の中心

豆知識

ガールガイド・ガールスカウト世界連盟の５つ目のワールドセンター「クサフィリ（Kusafiri）」は、スワヒリ語で「旅に出る」という意味です。

World Studies
はじめての 体験しながら学ぶアフリカ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

参加者募集中！ シニア・レンジャー・リーダー(成人会員)対象オンライン講座

第1回　6月20日（日）14:00~16:00

はじめてのアフリカ ー 国はいくつ？

アフリカ大陸の国々を知る
ビーズクラフトでアフリカの国旗を覚えよう！
アフリカの国旗の色でおしゃれなバングルを作ります

第2回　7月18日（日）14:00~16:00

はじめてのアフリカンファッション

暮らす人たち、民族衣装の着方を知る
アフリカの布でクラフトをつくってみよう！
アフリカの布でコースターまたはヘアバンドを手縫いします

第3回　8月15日（日）14:00~16:00

はじめてのアフリカ料理

アフリカの食文化を知る
アフリカ料理をつくってみよう！
美味しい！ニジェールのチキンザルマと
モロッコのアボカドジュースをいっしょに作ります

※講座の詳細は裏面をご覧ください♪

girl scouts

ガールスカウト対象オンライン講座

この講座は、東京都第36団とNGOアフリカ理解プロジェクトがガールスカウトを対象に企画した楽しい体験をしながら、アフリカについて専門的な知識（初歩）を学ぶ講座です。
アフリカを学びながら、SDGsを考える機会にもなります。
講座は、1回でも3回連続でも参加できます。お気軽にご参加ください。

対象
シニア・レンジャー
リーダー（成人会員）各回30名

参加費
シニア・レンジャー　：**1,000円**
3回参加割引：3000円　→2500円
リーダー（成人会員）：**2,000円**
3回参加割引：6000円　→5000円

※参加費には、第1回、第2回の講義資料・作り方・材料費と送料が含まれます。第3回目の料理は事前にレシピなど資料をメールでお送りします。料理の材料は各自で揃えていただきます。
鶏肉、アボカド、牛乳、卵などスーパーで買えるものです。
参加費は、講座終了後にお支払いください。

共催：アフリカ理解プロジェクト/ガールスカウト東京都第36団
東京都第36団は、NGOアフリカ理解プロジェクトとともに、アフリカの多面的な情報を伝えることで理解を促進し、世界に関心を広げ考える力を育てるプロジェクトをおこなっています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

申込方法
第1回～第3回のいずれも下記申込フォームまたは、QRコードよりお申込みください。
団でまとめてお申込みいただくことも可能です。
※シニア・レンジャーは、必ず保護者と団のリーダーに連絡してから申し込んでください。

申込みフォーム：https://forms.gle/5g535E8ZyxAUEXR7

問い合せ：下記までお問い合わせください。
Eメール：gstokyo36ranger.africa@gmail.com

申込締め切り
定員に達し次第終了。
または各開催日の1週間前まで

※詳細は、参加決定者にメールでお送りします。
※参加費は講座受講後、振込先をお知らせいたしますのでご入金をお願いします。

発行：アフリカ理解プロジェクト www.africa-rikai.net

報告書文責：アフリカ理解プロジェクト

©アフリカ理解プロジェクト

発行日：2021 年 7 月 28 日